

(第三種郵便物認可)

ロープレ甲子園開催

大阪代協が委員交流会開く

6委員会が活性化へグループ討議

大阪代協(黒石光寿会長)は8月2日午後2時から、大阪市北区のあいおいニッセイ同和損保フエニックスタワー16階会議室で委員交流会を開催し6委員会から52名が参加した。

まず、黒石会長が「大阪代協は長年の歴史を持ち、13支部6委員会と広報室で組織が成り立っています。支部会活動と委員会活動の歯車が噛み合わない組織運営ができません。オール大阪代協の認識のもと、プライドと責任を持って明るい委員会活動を心がけてほしい」と挨拶した。



グループ討議の様子

進の3つの委員会の取り組みについて活発な話し合いが行われ、その内容について発表があった。

テーマごとの主な発表内容は次のとおり。

●組織

「保険会社の協力を得る。保険会社の社員に代協の立場で代理店賠償の勉強会を開く」

「損害保険トータルランナーの重要性を説明会を開いてPRする。組織委員会と教育委員会が協力をして合って会員増強

●教育

「損害保険トータルランナーはここ数年受験率が高くなっている。募集の意識と品質を二人ひとりが高めていくことが大切。意識が高い募集人が増えれば年齢に関係なく受験者を増やしていける」

●年金基金

「年金基金が十分理解されていない。大阪代協の中には個人代理店が13%おり、その辺の深掘りも大切では」

「社会的地位を高めた代理店が増えており、法人化が進んでいる。その

最後に大島勝廣事業活性化委員長が「組織・教育・年金基金とそれぞれに取り組むべきことがあると思います。出席者の半分が役員なので、来年は委員の意見をもっと聞くために工夫していきたい」と総括した。